

第4章 日本におけるガールガイド運動の発足

本章および次章の目的は、イギリスではじまったガールガイドが日本に導入された過程とその活動の検討にある。それは、女子補導会、補導団として導入された少女の団体が、やがて、戦後の占領という状況下でCIEの注目を受け、全国の青少年教育関係者、婦人会等に紹介され、青年団などの他団体のモデルとしての役割をも果たした背景の解明につながる。ここでは、具体的活動内容と中心的な役割を果たした人物についても可能な限り言及を試みながら、イギリスではじまったガールガイドが、大正期、イギリス国教会系の日本聖公会に関わる教会、学校、幼稚園等に導入され、当然、東京、大阪、神戸を中心とした都市部の活動としてどのように導入されたのか検討したい。

以下では、1920（大正9）年1月、女子補導会という名称で始められた日本のガールガイド運動について、ここでは、1. 女子補導会発足の経緯、2. 初期の女子補導会活動、3. 女子補導会の性格、という3節構成で述べたい。

第1節 女子補導会発足の経緯

日本におけるガールガイド運動は東京市芝区白金三光町にある聖公会設立の香蘭女学校（St. Hilda's High School）ではじまった¹。先述したように、同校は1888（明治21）年に、イギリスの聖公会から派遣されたピカステス監督によって創設されたSPG系列の女学校である。

1919（大正8）年、同校にイギリス人教師のM. グリーンストリート（Miss Muriel Greenstreet）が着任した。彼女は英国ガールガイドの一級指導者でもあり、着任直後から日本でのガールガイド運動の準備を始めた。すでに来日していた麹町インマヌエル教会のバンカム司祭夫人（Mrs. Buncomb）を責任者とし、香蘭教員であった荒畑元子（基子の表記もあり）の協力を得てのことである。翌1920（大正9）年1月30日、香蘭女学校内の12名の生徒を集め、ガールガイド・イギリス連盟の支部（The National Council for Girl Guides in Japan）として日本のガールガイド組織は発足し、邦訳は日本女子補導会とされた。この時、第一次世界大戦が休戦し、戦前の国際連盟が結成された月のことである。ミセス・バンカムは日本女子補導会の代表（Chief Commissioner）となり、グリーンストリートは副代長（Lieutenants）という立場であった。彼女の日本滞在は1922年までの3年間であり、この間に初めて訪れた日本の文化になじみながら、この運動を発足させたのである²。

発足時から補導会に香蘭女学校の生徒として参加した櫻井国子は、当時の状況について次のように証言している（かっこ内は著者）³。

「香蘭女学校の四年生のときでした。ある日、お教室で富田俊子先生（東京女学館第一回卒業生、後に香蘭女学校校長）が、『今度、英国のガールガイド運動を、この学校でもすることになりましたから、入会したい人はミス・グリーンストリートか荒畑元

子先生に申し出て下さい。』とおっしゃいました。私は家に帰ってから父に『ガール・ガイド・ムーブメントとは何でしょう。』と聞きましたところ、父は『ガイドというのは、道案内ということだがなあ。』とあまりはっきりしませんでした。それでお友だちと相談して『道案内できるようにする方法は、きっとよいことにちがいないから入会してみましようよ。』と仲よし六人で申し込みました。その中には後にリーダーとなって、香蘭で熱心に指導をなさった石田光子様も入っておりました。

ガールガイドをそのまま和訳して『女子補導会』と名付け、その発会式が1919年に東京の聖アンデレ教会のお庭でありました。」

櫻井国子は青山学院教員の父、成明とキリスト教信者の母、とめの下で育ち、妹の澄子とともに香蘭に通学しており、上述のように、香蘭教員の富田俊子から補導会の紹介を受けたことがわかる（なお、発会式が1919年にアンデレ教会で行なわれたという点は、他の多くの記録に1920年1月に香蘭で発足と書かれていることとは異なる。しかし、グリーンストリートの来日が1919年であることから、準備段階の組の発足であると考えたい）。

日本において、イギリスの聖公会関係の学校と教会でガールガイドが発足したことについて、その背景を示す明確な文章は未見である。したがって、いくつかの文書、証言から検討せざるを得ない。女子補導会の便覧には次のように記されている⁴。

一九一九年に第一級の補導会員が日本に参りました。そして此処で世界の多くの補導会員に会いましたが、また誰も日本の少女等を会に紹介した事のないのに気がつきました。そして早速十二名の日本人と西洋人との一団を組長となす準備のために教えへました。彼等は月曜日曜毎に出会って、如何にして此遊戯をなす事が出来るかを学びました。そして終に一九二〇年一月三十一日初めて日本に補導会が組織されました。

忘れな草と桜草との二組が一団となって生まれ出で、東京芝区白金三光町三六〇番地に集会の結果『第一東京』と呼ばれる様になりました。そしてだんだん拡張されて各地にも組織されようとして居ります。

文中の一級団員とはグリーンストリートのことである。彼女自身は後年、この運動を始めた経緯について、「当時、まだ若い教師だったわたしは、リリーフの教師（だれかのかわりに）として3年間、東京の香蘭女学校で教鞭をとるため、日本に渡りました一中略一少女のクラブの様なものが何もないことに気がついたわたしは、やがてリーダーとなるべき人々の手助けを得て」⁵補導会をはじめた、と述べている。また、香蘭の教師でグリーンストリートに次いで香蘭の補導会を担当したT.C. ウィリアムス（Miss Theodora Caroline Williams）は、イギリス本国の関係者・宣教師団への報告書『1920年版年報』に「SPGの女性活動」という項目で、次のように記述している⁶。

「クリスチャンの少女たちと探求者たちがガールガイドを始め、また募集を行っている。ミス・グリーンストリートとミス・アラハタは学校内でミーティングを行い、OGのひとりはブラウニーを始めた。ガールガイドは、この学校の同窓意識のために限定されたものではないけれど、わが校の少女たちとミス・ホーガンの学校の何人かは活動をすすめるための班をつくった。少女たちはこの活動にひじょうに熱心である」

ここでは、ガールガイドが香蘭教師のグリーンストリートと荒畑元子の指導によって始められ、それがキリスト教信者の少女たちを中心とした活動であることが報告されている。さらに、翌1921年版には同じくT. ウィリアムスによる次のような記述がある⁷。

「きちんとした約束に従うガイドとブラウニーの活動が存在し、それは寄宿舍生活との関係からも実行され、少女たちを規則的に聖書のレッスンに向かわせる手助けとなっている。この様な時間を費やす活動に関する問題として、女子大学の学生の場合、拘束された時間割であることがあげられる。そこでは大学との関係から、ひじょうに多くの課題が時間内で実施されるため、しばしば実践は困難である。私は、このような活動（ガールガイド）は多くの拘束を受けず、また責任も少ないハイスクールの少女たちに対して、すすめられるべきものと考えてる。」

ここでは、女子補導会員と幼少のブラウニーの少女たちが、熱心に活動をすすめられつつあり、それがキリスト教教育にとっても有効であることが確認されている。後に詳述するが、女子補導会の対象はあくまでキリスト教徒であり、したがって、活動も「神への誓い」から始まっている。補導会が聖書のレッスンに結びついていったことは容易に理解される。また、女子大学（報告書の前後に暁星寮の記述があり、また、香蘭教員のグラディー・フィリップが講義を担当したことからも日本女子大学校のことであると考えられる）の学生は、大学での拘束時間が多くて補導会への参加が困難であること、が指摘されている。結果として、ガールガイド活動をすすめる主たる対象は女学校生徒におくこと、が述べられている。

以上、日本のガールガイドである日本女子補導会は、イギリスのガールガイド連盟の日本支部という形で発足し、聖公会の経営する学校である香蘭女学校において入信者を中心に始められたこと、さらに、キリスト教教育の一貫として紹介、導入されたものであり、T. C. ウィリアムスをはじめとした他の宣教師たちも布教のための有効性を確認していったことがわかる。

第2節 初期の補導会活動

発足当初の東京第一組は、香蘭女学校の各学年生徒と刺繍部員の中の志望者によって構成され、校内で集会を行い、「わすれな草」「桜草」という二つの班でパトロールを行った。

しばらくすると、白金三光町と近接する芝の聖公会の聖アンデレ教会でも補導会の活動が開始され、区別するため香蘭の組を 1a、アンデレ教会の組を 1b と呼称した。団章（会員ピン）はイギリスと同じものを使い、「やくそく」「おきて」はイギリス連盟の案を翻訳したものであった。出発当時の第一組には、櫻井国子（後、津田塾を経て教員、補導団事務局、戦後は動物学等の翻訳活動）、櫻井澄子（国子の妹で、1937年のアメリカ合衆国でのガールガイド・ガールスカウト世界大会に参加、後、吉田姓となり、戦後はガールスカウト日本連盟第二代会長）、細貝のぶ（後に日本聖公会牧師の黒瀬保郎と結婚して、黒瀬のぶ）、細貝なお（のぶの妹）等のメンバーが香蘭の生徒として発足初期から参加していた。

当初、日本独自の制服は作られておらずイギリスから取り寄せた制服着用を検討したが、紺無地のメリンスの和服と袴という日本式の制服も採用された。1920年の夏には聖アンデレ教会の女性宣教師ディクソン（Eleanor M. Dixon）の福島県猪苗代湖畔の別荘でキャンプを行い、1922（大正11）年5月には香蘭女学校内で初のラリーが行なわれている。1920年夏のキャンプの活動内容は次の通りである⁸。

[指導者]ミス・ディクソン、ミセス・マキム、檜垣茂（東京女学館）、ミス・タナー（香蘭副校長）

[参加者]女子補導会東京第一組他9名（村岡鶴枝、宮川俊子、桜井くに、佐々木イツ子、平田信代、井原タミ子、細貝ノブ、宮川秀子他）

[活動プログラム]磐梯山登山、湖で水泳、湖畔の松林で野外炊飯、湖畔半周ハイキング、翁島へのハイキング、植物採集、押花整理、国旗掲揚、朝晩の礼拝、郡山聖ペテロ・聖パウロ教会の日曜礼拝出席、道しるべ追跡、疎水の川幅計測、食事・料理当番実習

（1921年にも、第1組、第2組合同で同様の活動）

当時の女子対象としては稀有なボーイスカウトと同様の野外活動、自然観察、パトロール活動、さらに宗教教育と国旗掲揚が行われていることを確認しておきたい。香蘭女学校で始まった1組の他に、複数の組が結成された。補導会発足当時の組について、前出の櫻井くに子は以下のように述べている⁹。長い引用となるが、当時の様子を裏付けるものとして以下を確認しておきたい。

「集まった少女達は、たしか三組に分かれていました。第一組は香蘭女学校の各学年と刺繍部から応募した生徒、第二組は英国の少女二、三人と、聖心と学習院の生徒たちの国際組、そして第三組は日本女子大学付属女学校の学生でした。

第一組は比較的人数が多かったので、私たち教会に属している生徒は、同じく教会員であるお茶の水（女子高等師範付属の学校）、東京女学館の生徒と共に、桧垣先生（当時、東京女学館教員）をリーダーとして、東京第一組の第二グループのような形で、

毎週金曜日に聖アンデレ教会で集会をもち、縄結び、包帯巻きなど、基本のことをいろいろ学びました（当初、香蘭の組を便宜上第一組 a、アンデレ教会の組を第一組 b とした）。そして一ヶ月に一回ぐらい、全部の組が香蘭女学校に集まって、ミス・グリーンストリートのきびきびした指導で、英国のガイドの訓練法により、班活動や馬蹄形の作り方、ゲームによって楽しく学ぶ方法などを教わりました。ミス・グリーンストリートは日本語がおできにならなかったもので、すべての命令は英語でだされ、それには迅速に従わなければなりませんでした。ガイドの精神を盛り込んだ英語の歌を学ぶのも楽しみでした。英国人は一般に躰けのきびしい教育を受けており、その上、ガイドとしての使命感に燃えていらっしゃるせいか、きちんと制服を着けたガイドが数名も集れば、私どもに与える感銘は非常に大きく、生涯の献身を誘うものでした。ミス・グリーンストリートの帰国後、第一組ではミス・ウィリアムス、ミス・ウーレーと引継がれ、副リーダーにも石田光子様、竹井富美子様、関根八千代様、森ひな子様と各学年から次々と後継者が出て、戦後もミス・ウーレーと後藤八重子様の努力でガールスカウト東京第一団の地位を保っております。

第二組の国際グループは、かなり早く解散して、聖アンデレ教会の組が第二組を名乗るようになりました。そして学習院の方が数名加わりましたが、その中の溝口歌子様は在英中に入団なさっており、生粋のガイドらしさで、つねにリーダーシップを發揮し、後には黒瀬のお様に続いて、第二組のリーダーをなさいました。桧垣先生の直弟子の井原たみ子様も、先生とご一緒に、数年後に設置された日本女子補導団の役員として、また、母校の東京女学館につくられた第四組のリーダーとして、熱心にお戻しになりました。

日本女子大（付属学校生徒を含む）の第三組は、皆さんの大学進学とともに集会が持ちにくくなり、第二組の年長となった団員も、それに加わりました。

その頃は、少女の活発な活動はすべて『少女だてらに』といわれて批判されたものでした。それ故、ガイドたちは、一般の少女が味わうことができなかつた楽しい経験をし、また、自分に備えておかなければ、いざというとき、他人を助けることができないと教えられて、熱心に縄結びや救急法を勉強しましたから、非常に有意義に、少女時代を過ごすことが出来たと思います」

ここには、香蘭女学校ではじまった女子補導会が、会員の増加にしたがって複数の組が結成され、外国人のための組、香蘭以外の学校生徒の参加あったことがわかる。具体的に、香蘭女学校に加えて、アンデレ教会、日本女子大、後に東京女学館の組が結成され、英語によるイギリス式のガールガイドの指導が行われていた。キリスト教活動という色彩が強かったこともあって、香蘭女学校と近接するアンデレ教会に集まる英国人少女と聖心女学院の外国人少女、学習院女子部の生徒たちによる国際的組も生まれ、その中には、駐日イギリス大使の娘であるタイリー (Tyly)、K. ガントレット (K. Gauntlet-麻布中学のガン

トレットと妻・ガントレット恒子の娘) たちが在籍した。また会員が減少した場合には再度改組されるが、教員、および生徒ともに教会を通じてつながりをもっていたことが理解される。

ここまで述べた補導会初期の東京の動向を整理すると下記の通りである¹⁰。

【東京第一組 a】香蘭女学校に設置され、東京第一組と呼ばれる日本最初のガールガイドとなった。1920年、一時期、後にアンデレ教会の組と区別するために一組 a と呼称された時期がある。戦前の東京第一組の組長は原則としてイギリスから派遣された聖公会宣教師があたり、副組長は日本人女性で、香蘭教員および香蘭女学校の卒業生があたった。彼女たちは、その後の補導会、補導団、さらに戦後のガールスカウト運動でも指導的役割を果たした人物が多い。戦前の組長、副組長は下記の通りである。

○歴代組長

グリーンストリート (Miss Muriel Greenstreet)

ウィリアムス (Miss Theodora Caroline Williams)

ウーレー (Miss Amy Katherine Woolley)

ヘイルストーン (Miss Mary Elenor Hailstone)

○副組長(カッコ内は結婚後の姓)

荒畑元子—香蘭第10回卒業生・1903年卒—香蘭教師

石田(高橋)光子—同上、第29回・1922年卒

竹井(森山)富美子—同上、第30回・1923年卒、女子補導団事務局

関根(宮澤)八千代—同上、第32回・1925年卒

森ひな子—同上、第33回・1926年卒

木藤(松本)信代—香蘭教員、戦後、千葉市川聖公会

櫻井(吉田)澄子—香蘭第33回卒業生・1926年卒、戦後GS日本連盟2代会長

稲田旭子—同上、第38回・1931年卒

龍崎恭子—香蘭教員

【東京第一組 b】(後の第二組、国際組活動停止までは一組 b の呼称) 1920～・聖アンデレ教会で活動。檜垣茂(聖アンデレ教会婦人伝道師、東京女学館教師)、その後、細貝(黒瀬)のぶ、英国でガールガイドを経験した溝口歌子(女子学習院卒)、楯戸けい子がリーダーをつとめた。当時の聖アンデレ教会は香蘭と近接していたため一組、国際組と混同されるが別の組。主としてアンデレ教会に通う香蘭女学校以外の生徒、単独会員、特別賛助会員が参加した。日曜学校生徒を中心に東京第2組ブラウニーが結成された。

【東京第一組ブラウニー】1921～香蘭女学校内聖ヒルダ陽光ホームで発足。A.K. ウーレー (Amy Kathleen Woolley) が主たる指導者。

【東京第二組】(東京国際組) 1920～23 香蘭女学校を活動場所とし、グリーンスト

リートを組長として発足、聖心女子学院に在籍するイギリス人をはじめとする外国人生徒と女子学習院の生徒達が集まった。

【東京第三組】1920頃～ 牛込の聖バルナバ教会で発足。香蘭に着任したG. フィリップ（香蘭教員、後に日本女子大学教員の Gladys Elinor Philipps）が中心となり、後、日本女子大の暁星寮におかれた。日本女子大付属女学校生徒を中心として発足し、大学生にも呼びかけが行なわれた。三田庸子（香蘭舎監）も協力した。

【東京第四組】 1922年～ 平河町マリア館で東京女学館生徒を中心に準備集会はじまる。正式発足は、補導団に改組された後の1923年2月10日となる。女学館教員ウーレーの指導。関東大震災後、ウーレーは香蘭に移籍後は、女学館教員檜垣茂、井原たみ子（東京女学館卒）が指導にあたった。

以上は当時の東京市内の香蘭女学校を中心とした動きであったが、このほかに補導会として盛岡で活動が始められていること、横浜に団員が存在したことが記録されている。盛岡については、1921年発行の『女子補導会要旨』に「我国に於ける本会の運動は昨年より東京と盛岡にて初められ目下普通会员六十余名少女部会員二十余名を有す」と記されており、1922年の補導会初のラリーには、横浜からの参加者が記録されている。

補注：なお、例外的なものとして、東京の余丁町少女団と静岡少女団について記しておきたい。

【余丁町少女団】（後、東京三組） 1921～・牛込区余丁町小学校に、東京少年団の小柴博の協力者であった日野鶴吉が主席訓導として着任し、少年団（ボーイスカウト）を始めた。当時の余丁町小学校は通学区域内に知識人が在住、また、公務員住宅である官舎が多く存在した地域であり、子どもたちの教育のため先進的な教育の試みが行なわれていた地域にあった¹¹。当時ドルトンプランやデューイを学んでいた同行の訓導・池田宜政（よしまさ＝後に作家の南洋一郎）¹²が後見者となり、小学校高学年女子を対象に少女団を1921年に発足させた。池田は、聖公会関係者のマッキムに英語を学び、彼女の紹介でイギリス人ガイドを紹介され、余丁町少女団を日本女子補導会に加盟させた。23年9月の関東大震災で救助活動に活躍して注目された。池田は、1924年世界ボーイスカウト・ジャンボリーに少女団の代表資格で参加している。

【静岡少女団】1922年～ 静岡城内小学校で設立。団長・川野辺静（戦後参議院議員）、理事長・高橋喜太郎（学校長）、総裁・尾崎元次郎（静岡少年団）のもと、当初262名で発足。ガールガイドを参考にしつつ独自の綱領を作成している。なお、尾崎の長女・三津子は戦前イギリス滞在時にガールガイドを知り、戦後ガールスカウト静岡県支部を設立した。

余丁町少女団、静岡少女団は両者とも、日本のボーイスカウト運動である少年団の展開

から結成されたものであり、直接、聖公会の学校・教会との結びつきが存在するわけではない。しかし、両者ともイギリスのボーイスカウト・ガールガイドの影響をうけて発足したことは確かであり、また日本の聖公会関係者との連絡関係はあること、例えば、余丁町少女団の池田宣政は後に結成される日本女子補導団の事務局も担当している。

本節では、1919（大正8）年、香蘭女学校にイギリス人教師グリーンストリートが着任し、翌1920年にガールイガイドのイギリス連盟日本支部として女子補導会が発足した経緯について確認した。

なお、香蘭女学校、聖アンデレ教会を中心とした日本聖公会の人的つながりがあったこと、また、当時日本に在住したイギリス、オーストラリア大使館員家族を始めとした外国人の子どもたちに呼びかけが行われ、聖心女学院に通学する生徒たちが、香蘭の国際組に参加した。さらに、地理的にみれば、当時、香蘭女学校の存在した東京市芝白金三光町、聖アンデレ教会は運転を始めた山手線の内の近接した地域内であり、広尾の聖心女学院、虎ノ門の東京女学院ともに徒歩での連絡が可能な距離にあった。その意味でも、指導者であるイギリス人宣教師、各校の教員、参加した生徒たちが相互に往復できる関係であったことを指摘しておきたい。

1921（大正10）年、香蘭女学校内におかれた女子補導会本部では『要旨』が発表され、翌1922年には、はじめての便覧（ハンドブック）『女子補導会』が発行された。

第3節 女子補導会の性格

香蘭女学校内に女子補導会本部がおかれ、1921（大正10）年5月には『要旨』が発表された。女子補導会の要旨は次の通りであり¹³、以下にしたがって確認し、女子補導会の性格について、1922年の『女子補導会』便覧とあわせて検討してみたい。

女子補導会要旨

- 本会は善良なる国民として国家に奉仕せんと希ふ女子の団体なり。
- 本会は境遇の如何を問はず凡ての会員に健全にして興味ある活動的課程をとらしめ娛樂中に左の四方面に涉り学校教育と相俟ちて實際的教養を授く。
 - 一、確固たる品性を養成し知識の開發に努むる事。
 - 二、手工技能の熟達せしむる事。
 - 三、同胞主義の実を挙げ他人に対する奉仕を勤むること。
 - 四、衛生を重んじ健康の増進を計る事。以上は凡て課業として強ひる事なく或る種の運動遊戯の中に愉快に修得せしめらるゝにより会員等は自ら興味を以て熱心に之が実行を励むに至る。右の外会員にして美術、音楽、語学、料理、裁縫、編物、家事、看護法、体操其の他各種有用なる特別知識を修得したる者にはそれぞれ徽章を授与して之を奨励す。
- 本会の標語「備へせよ」
- 本会に入団せんとする者は左の契約をなし各自其の最善を尽さんことを契ふものとす。
- 契約

- 一、私共は神と天皇に忠誠なるべきこと。
- 二、常に人々の補助たらんと務むべきこと。
- 三、会則を守るべきこと。

●会則

- 一、会員は信頼せらる可き者たるべし。
- 二、会員は天皇と国家に対し忠良なる臣民たるのみならず凡て其尊長に忠誠なるべし。
- 三、会員は常に人の益を計るべし。
- 四、会員は凡ての人に親切を尽し会員相互の間は姉妹の如く交るべし。
- 五、会員は礼儀正しくすべし。
- 六、会員は動物を愛護すべし。
- 七、会員は命令に服従すべし。
- 八、会員は如何なる困難に遭遇するとも常に快活なるべし。
- 九、会員は勤儉なるべし。
- 十、会員は思想、言語、行為に於て純潔なるべし。

●会員の資格

- 一、小学々齡に達したる者並に其れ以上の年齢の女子たるべし。
- 一、本会の会員は入会の際前記の三契約をなさざる可からず。従つて加入者は凡て基督教信者たるべきは勿論なれども基督の教を受け信仰に入らんと求むる者にして加入を希望する時は特別に入会を許す事あり。
- 一、但し凡ての役員並に列長及第一級会員は基督信者に限るものとす。

●会員別並に組織

- 一、学校卒業以上の年齢の者を普通会员とし之を三級に分つ。
小学校時代の者を少女部会員とす。
- 一、八人の会員を以て一班を組織し三ヶ以上の班ある時は之を合して一組となす。
各班は列長並に副列長に従ひて行動し各組は組長並に副組長の指導を受く。

我が女子補導会は英国におけるガールガイドの運動に連結したるものなり此ガールガイドの運動は嘗てロバートベードン、ポエル將軍の創立にかゝる少年義勇団の非常なる成功に鑑みて女子の為に起こされしものにて一九一五年倫敦に於て初めて組織せらる。而して現在にては二十七万五千以上の会員並に之に伴ふ役員を有する。一大組織となりて世界の各方面に活動しつつあり

一九二〇年一月各国における団体と通信し之が結合を計らんが為国際的會議起され外国に於て此の運動に加入せる団体は其の国情に従ひ組織上或は諸規則等にも多少変更のあるべく自由に役員を選挙し制服徽章等を定めをもなし得る事を決議せられたり。

我国に於ける本会の運動は昨年より東京と盛岡にて初められ目下普通会员六十余名少女部会員二十余名を有す又近く入会せんとして準備中のもの若干名あり

大正十年五月

東京市芝区白金三光町三六〇香蘭女学校内
女子補導会本部

尚詳細は香蘭女学校内女子補導会本部ミス、グリーンストリート宛にて御問合わせあらんことを乞ふ

以上が、女子補導会としてはじまった日本のガールガイド運動の要旨であるが、主に次ぎの三点からその性格について検討したい。第一は、イギリスのガールガイドの翻訳段階

からはじまったこと、第二に、キリスト教にもとづく活動であったこと、第三に、少女を対象とした都市型の社会教育活動であったことである。

第一の、イギリスのガールガイドの翻訳段階から出発であることについて。

要旨の骨格となる3つの契約(The Guide Promise・ちかい)、10項目の会則(The Guide Law・おきて)は、第1章の「イギリスにおけるガールガイドの成立」で見たように、イギリスのガールガイドの原案を翻訳したものであり、基本的枠組みとしてその後の女子補導団、戦後のガールスカウトに継続していくものである。標語の「備へせよ」は「Be Prepared」というボーイスカウト・ガールガイドに共通する標語である。

また、女子補導会は、イギリスのガールガイド、ボーイスカウト運動にも「連結」したものであることが述べられている。ガールガイドについては、イギリスで1915年に正式な組織が発足して、その後27万5千人の会員を有していること、1920年には国際会議が開催されて、各国の事情に対応した組織、諸規則、役員選挙、制服徽章を定めることが出来るようになったことが紹介されている。その上で、発足から1年を経過した日本国内での補導会について「昨年より東京と盛岡にて初められ目下普通会员六十余名少女部会員二十余名を有す又近く入会せんとして準備中のもの若干名あり」と記述されているのである。

イギリスのガールガイドを手本として、来日したガールガイド資格を持つイギリス人教師を指導者として、イギリス国教会系の女学校、教会で発足した女子補導会の姿をそこに確認することが出来る。

第二に、キリスト教との関係である。補導会では、会員の資格が、小学学齢以上の女子であることと並んで、キリスト教信者あるいは入信を希望するものに限定されている。「加入者は凡て基督教信者たるべきは勿論なれども基督の教を受け信仰に入らんと求むる者にして加入を希望する時は特別に入会を許す事あり」とあり、したがって「凡ての役員並に列長及第一級会員は基督信者に限る」とされた。この点は、1922年の女子補導会便覧においてさらに明確に「此運動においては、創造主なる神を認識める事を第一歩として、多く自然を学ぶ事に努めるのであります。これは少女等に美の観念を深く持たせ、また敬神の念を与へるためであります」¹⁴と示された。日本で女子補導会は「基督教信徒でない少女等の間に組織される倶楽部或は会の様なものも多くありますが、我補導会は純然たる基督教主義に基く運動であり」¹⁵、実際の活動もキリスト教の祈祷から始められている¹⁶。

一方で、女子補導会は天皇制を前提としており、約束には「天皇陛下に対して、忠義を尽くす約束をすること」¹⁷がおかれている。「陛下に対して」次のように記されている¹⁸。

補導会員は、必ず定められた指揮者の命に従うのであります。国民間に於ても同様であります。日本国民は一つの大きな団体であって、その首として万世一系の天皇陛下を戴いております。私共が戦時に於ける軍人の様に、蹴球競技に於ける一団の様に、

陛下を尊とびお従ひして居る間は、凡ての事業は成功するのであります。

若し各自が勝手に、自分達の思ふまゝを振舞ならば、規律も成功もないのであります。然し私共が、陛下の御命令のまゝに働きいそむならば、私共の国はいつも栄ゆるのであります。

ここには、封建的な天皇への「忠義」が示されている。キリスト教と天皇制と神の理解については、キリスト教国であるイギリスから日本に導入される際に、「深き考慮の結果と、多くの討議を重ねたる末かく決せられた」¹⁹結果でもあった。この点は補導会への改組、さらに日本の国家体制の中でさらに表記が問われていく部分となる。1920年代はじめの日本とイギリス両国家の関係は日露戦争前からの日英同盟と第一次世界大戦の連合国軍としての同盟関係により良好であったが、昭和期以降の緊張関係が日本のガールガイド運動とその性格理解に影を落としていく。なお、日本のみではなく、ガールガイド運動自体が、イギリス国内において、キリスト教として非宗派的（エキュメニカル）活動を標榜して出発しているが、その後の世界的な普及、発展の過程でキリスト教圏外での応用をはかっていくことになるのである。

第三は、少女を対象とした都市型の社会教育活動であった点である。女子補導会は都市部の女子児童、生徒を対象とした組織的な社会教育活動としても画期をなすものであった。

青年期の女子社会教育については男子向けの青年団から遅れる形ではあったが、明治の末期から未婚女性の修養機関として処女会の組織化がすすめられた。天野藤男と多くの女性教育関係者の協力によって1915（大正4）年には全国処女会中央部が設立され、機関誌『処女の友』の発行と地方での修養講演会が開催された。1918年には、内務・文部両省によって「女子青年団体の指導と設置要綱に関する訓令と通牒」が出され、婦徳の涵養と情操の陶冶を中心とした女子青年団体の設置が奨励され、1927年処女会中央部は解体した形で大日本聯合女子青年団が発足している。しかし、処女会、その後の女子青年団ともに、対象は主に地方農村部の義務教育学校卒業後の女子を対象とした講演と個々の修養をもとにしたものであった。

女子補導会の場合、対象は限定されたものであるが、都市の学校に在学する児童、生徒であること、教育目的とともにその内容と方法が明確に示され、それに対応したプログラムが確定していたのである。補導会の目的、内容、方法についてさらに確認してみたい。

目的については、『要旨』の冒頭にあるように「本会は善良なる国民として国家に奉仕せんと希ふ女子の団体」であり、国家のために有為な女子教育活動であること、「凡ての会員に健全にして興味ある活動的課程をとらしめ娛樂中に左の四方面に渉り学校教育と相俟ちて實際的教養を授く」ことにおかれた。ガールガイドは当時の児童の関心にもとづく新教育活動の側面が存在し、また学校教育とも対応した社会教育活動であることを提示している。その、四方面とは、①品性養成と知識開発—遊戯、試験、名誉及び活動等に於て、②手工技能の熟達—各科に於ける会員の上達を示す徽章等により、③他人への奉仕—日常行

う事の出来る親切な行為、組織的公共的な奉仕により、④衛生の重視と健康増進一体操、遊戯、舞踏、散歩また健康増進についての法則、であり、内容はイギリスのガールガイドの目標として当初から示されたものであった。「美術、音楽、語学、料理、裁縫、編物、家事、看護法、体操其の他各種有用なる特別知識」は徽章を獲得するバッジシステムの内容でもあるが、当時の女子教育、とりわけ高等女学校の教科内容と比較した場合、語学、看護法は新しい領域であった。

1922年の補導会便覧に掲載された目次を、活動内容理解のために示すと次の通りである。

目次
○第一章
補導会とは何か 何故補導会と呼ぶか 基督教主義に基く運動
補導会は何をする事が出来るか 階級
○第二章
その一 補導会の少女部 契約 入会志望者 敬礼 標語
忠義について (イ)神に対して (ロ)陛下に対して
善行 補導会少女部の笑顔 入会志望者の試験 少女部の入会式
その二 第二級補導会少女部
試験項目 (イ)結び方 (ロ)小包のつくり方 指或は其他の怪我の手当法
(イ)手の傷 (ロ)擦過傷
健康法 栄養の価値ある食物 排泄作用 新鮮なる空気と深呼吸
鼻で呼吸する事 身体鍛錬法 上体の運動 腹部の運動
その三 第一級補導会少女部国歌 羅針盤の読み方 着物のたゝみ方
言伝を頭の中で憶えて人に伝えること 三角繙帯のあて方 徽章
○第三章
その一 補導会員 会員の契約 会則 「備へせよ」 入会の手続
補導会の階級 初歩の試験課程 補導会の標語 初歩の徽章
笛の意味 観察 補導会入会式 組及び組章
その二 第二級補導会員 試験項目 (一)知識 (二)手芸
(三)保健法 自然に就て二三 動物の習性 爬虫類 昆虫 樹木
草花 都市に於ける自然の研究 忍び歩き 身を隠す法 形跡
人物観察 応急手当 健康になる賢い方法 力を発達させる遊戯
その三 如何にして之以上に進むか 上達章について 看護の価値
組長に一言す 第一級補導会員にならうとするものに与ふる 二三の要点
第一級試験項目 高さ及距離の見当のつけ方 初歩の者を如何に訓練するか
調理法 火災の場合 溺死 感電 瓦斯 煙 炭素中毒
手足の骨が挫けた場合 副木 繙帯 気絶 中毒 息詰り 擔荷
家庭に於ける保健法
その四 凡ての会員の知らなければならぬこと 各種の結び方及び其用法
身体の運動及其効果 制服 補導会の祈祷 補導会の歌 会員の心得

ここから、女子補導会の内容、方法、その意味について確認してみたい。

第一に、内容を概観すると、野外活動、自然観察、健康管理、救護方法について実践的

活動項目が並び、それぞれについて「試験」が課されていることがわかる。これらは、バッジシステムに象徴されるように、少女たちの知識・実践理解の確認とより多くのバッジ獲得のために努力していくという向上心に働きかけるものでもあった。「少女等を才能ある婦人とするためには、予め通過せねばならない一定の試があります。然しそれも決して、試験としてではなく、寧ろ愉快的な遊戯として行ふのであり」、「また其の試の他に少女等は、公の奉仕によつて自分の価値を證明する方法を見出す」と奉仕活動の重要性を位置づけている。

第二に方法としては、児童中心主義の形態でもあるパトロールシステムの6人のグループ活動が重視され、後のブラウニに相当する少女部では次のように説明されている。

「補導会の少女部は大人の方々に対して、善事をなす小さい人々の群であります。彼等六人は各一組をなして、共に働き共に遊ぶのであります。其六人の上には、各々組長があつて、少女等が先生と呼ぶ年上の補導会員によつて、指導せらるゝのであります。少女部の組は、各自色々の動物に因んだ名を有し、其名をとつた動物のよい特性を充分に發揮する様に努めるやうになつて居ります。譬へば敏活な兎、遊ぶ事の好きな猫、忠実な犬、機敏な栗鼠、役にたつ馬、忍耐深い駱駝等が其代表者であります」²⁰

第三に、補導の意味については、人を助け、導くという点から、「補導会員は、自己の勇氣と障害物を手早く除き去る手腕をもち、真心から人に仕へて實際役に立つ身体と精力とをもつて他の人々を助ける事が出来る様に用意されてゐなければ」ならないこと、「精確なる訓練、手際のよい繃帯の巻方、整つた正服の打扮等は『よき補導会』となる歩み出しの一步であります。然しそれ等は唯、婦人として心得て置かねばならない多くの事柄の中の、極く小さな事柄にすぎないのであります。愉快的笑顔、臨機応變の智慧に富むでゐること、また与へられたる仕事を立派に仕遂げる敏活なる智力等をもつ事等は、よく訓練されたる補導会員である事を明らかに證明するものであります」²¹と説明された。

イギリスのガールガイド運動の目的が大英帝国を維持するため市民性にあり、また女性として、妻であり、母の養成にあつたことは第一章で述べたが、女子補導会の目的にもそれは示されている。「母たる者の責任は、実に大きいものであります。然し其母は自分の持つて居らぬものを、他に与へる事は出来ません。そこで私共の目的とする処は、少女等に眞の意味の自尊心を作らせ、国を愛する人、健康体で勇氣ある人、又やがては有用なる母や主婦となり、立派な市民となる様に、指導し援助しやうとするのであります」²²と母、主婦、市民の養成が重視されたことがわかる。

日本でも大都市部を中心に、第一次世界大戦後、従来の家制度とは異なる都市型家族が増加した。東京駅が「帝都」の中央駅として整備され、環状運転を開始した山手線に乘車して官庁、企業に通勤する男性と家事・育児を担う女性（主婦）によって構成された親子二世帯を原則とした都市家族が急速に増加してくる時期である。家庭に、また社会に貢献する力量と科学的・合理的な思考の出来る女性の育成が求められ始めていた。補導会の誕生はこうした女性観の変化、女子中等教育進学者の増加と無縁ではない。

男子に比較して女子への社会教育活動に関心が薄かった時代、補導会は、女子のみの団体としてグループ活動、国際的な教育を目指した。女学生の制服も和装から洋装にきりかわりつつある時代であったが、当時の日本では女子が洋装をし、手芸と裁縫の他に、手旗信号、救急法、キャンプや野外調理を行う姿は、全体的に見れば少数ではあった。従来の家制度の中の女性、また処女会・女子青年団において期待された少女像とは異なり、都市部においても一つの少女像が発達していたと捉えることも出来る。

小結

本章では、日本のガールガイドである日本女子補導会が、イギリスのガールガイド連盟の日本支部という形で発足し、聖公会の経営する学校である香蘭女学校において入信者を中心に始められたこと、また、キリスト教教育の一貫として紹介、導入されたものであった。その中で、イギリス人宣教師たちは日本人少女に対するガールガイドの教育的可能性と布教のための有効性をも確認した。

活動初期の女子補導会は、香蘭女学校、アンデレ教会、バルナバ教会、東京女学館を中心に人的・地理的に近接したところで発足した。当初の性格は、第一に、イギリスのガールガイドの翻訳段階からはじまったこと、第二に、キリスト教にもとづく活動であったこと、第三に、少女を対象とした都市型の社会教育活動であり、グループワークの班活動を行なう当時としては稀有な存在であった。

註：

¹同校では、ガールスカウトに改められた現在も、東京第1団として活動を継続している。

² なお、グリーンストリートが、SPGの宣教師として派遣されたという記録は、イギリスの海外派遣に関する記録にも、日本の聖公会の教育関係者名簿に無い。しかし、そのことはグリーンストリートがSPGとまったく無縁ということではなく、例えば彼女自身が個別の収入があって来日した場合、あるいは直接日本に滞在していた聖公会関係者に招聘された場合が考えられる。以下に、現在のイギリスSPGアーカイブスのウェイクリング氏(Catherine Wakeling Archivist USPG)にグリーンストリートについて問い合わせた際の返信を掲載しておく(2004.11)。

Miss Mariel Greenstreet does not appear to have been an SPG missionary, as there is not a card for her in the missionaries index and her name is not listed in the diocesan tables in the SPG annual reports for the 1920s. However, this is not entirely unusual, as many women missionaries at institutions associated with the SPG (such as St Hilda's School) were not directly missionaries of the Society. There are a number of reasons for this: some women had a private income of their own, so did not need to be funded by the Society; some women were recruited directly by the bishop or the head of the institution and their salaries were paid from the SPG's grant to the institution; others who were recruited directly had their salaries paid from the income of the school from fees. This means that although

Miss Greenstreet was active at the school there is no personal information recorded about her in the Society's archives.

3 櫻井くに子「私のガールスカウト体験記・第四回」ガールスカウト日本連盟『リーダーの友』38・39 合併号、1976年、3月25日号、34 ページ。

4 女子補導会本部編・坂西志保子訳『女子補導会』基督教興文協会・1922年、148-149 ページ。

5 ガールスカウト日本連盟『半世紀のあゆみ』1970年、31-32 ページ。

6 The Guild of St. Paul『Annual Report and Statement of Accounts 1920』1920年、25-27 ページ。原文は下記の通り。

Some of Christian girls and enquires have become Girl Guide or are recruits for it. Miss Greenstreet and Miss Arahata take the meetings in school, and one of our old girls has the Brownies. It is, of course, not confined to this school for membership, but our girls and some of Miss Hogan's Embroidery school girls made a nucleus to start with. The girls getting really keen about it.

7 The Guild of S. Paul『Annual Report and Statement of Accounts 1921』1921年、32 ページ。原文は下記の通り。

There is some fairy promising Guide and Brownie work being done in connection with Hostel, and it is helping to bring girls regularly to Bible lessons. The great difficulty about any work like this, which takes up time, is that the students at the Women's University have very full time-tables, and a great many calls are made on their time in connection with the University, and it is sometimes almost impossible to get practice. I think the work will develop more amongst the High School girls, who are not so fully occupied and who have fewer responsibilities.

8 前掲『半世紀のあゆみ』23 ページ。

9 前掲「私のガールスカウト体験記・第四回」34-35 ページ。

10 前掲『半世紀のあゆみ』、坂井博美・矢口徹也「補導会(団)、ガールガイド、ガールスカウトの研究」(日本社会教育学会自由研究部会発表資料2000年、於:早稲田大学)、ガールスカウト日本連盟所蔵資料をもとに確認した。

11 家永三郎『余丁町小学校』

12 池田宣政(1893-1980)は東京府下の教員を経て、作家、翻訳家。池田宣政(のぶまさ)、池田隆子、池田洋子、荻江信正、南洋一郎のペンネームで児童文学作家として活躍した人物。東京生れで、英語学校(夜間)部から、青山師範学校へ。在学中に学んだドイツ語の他、卒業後も教員生活の傍ら、アテネ・フランセでフランス語やラテン語を学ぶ。余丁町小学校時代に少女団を担当、女子補導団の役員資格で1924(大正13)年にコペンハーゲン開催のボーイスカウト世界大会に女子補導団役員資格で参加した。その際、東京府の欧州地区視察報告として「欧洲各國ニ於ケル少國民ノ訓練」(東京市牛込区青年団)を執筆、さらに「懐かしき丁抹の少年」(『少年倶楽部』1926、で作家デビューした。戦前、池田名義で『リンカーン人物伝』、『野口英世』、『ペスタロッチ』等の偉人伝を執筆した。1939(昭和14)年の「婦人従軍歌」(『講談倶楽部』新年号付録)、「形見の万年筆」は戦後映画化されている。併行して、南洋一郎名義で冒険物語を執筆している(ポプラ社『南洋一郎全集』全十二巻)他に、戦後は『怪盗ルパン』の翻訳・紹介をした人物でもある。晩年は日本児童文芸家協会顧問を務め、1980年、逝去後に、勲四等瑞宝章が追贈されている。

なお、近年、池田の1941年の『ヒットラー』執筆を中心とした戦前、戦中の著作内容とその戦後活動について、批判的な考察がある。藤田のぼる『児童文学に今を問う』教育出版センター・1990年、勝尾金弥『伝記児童文学のあゆみ——1891から1945年——』ミネルヴァ書房・1999年、奥山 恵『『戦争』をはさむということ——池田宣政の伝記について——』『児童文学評論』4号(VOL2) 2000.7.13日号、を参照されたい。

13 女子補導会本部『女子補導会要旨』（パンフレット）、1921年5月。

14 前掲『女子補導会』4ページ。

15 同前4ページ。

16 補導会には長短二つの祈祷があった。『黒瀬のぶノート』ガールスカウト日本連盟所蔵。

（短い方）

我等の造り主、命の源なる神よ、願はくは我等を助け、導き給ひて体も霊も主の住居にふさわしき者となさしめ、常に吾の為め他人の為に尽さしめ給はん事を主イエス、キリストに依りて希ひ奉る。アーメン。

（長い方）

全能にして限りない神よ、御恵によりて僕婢等は信仰の良き戦をたたかひ、主に服ひ、行にて聖栄を顕すことを得させ給、我等を助けて賢く思ひ、正しく語り勇ましく決し、愛を以て行ひ、潔く生くる事を得させ給へ。又願くは我等の身体と靈魂とを祝し、又会員凡てを幸ひ給へ。比の国に在る者も、他の邦に在る者も皆絶えず御前の擴めらるる事を求めしめ給へ。主の御前に在る事を覚えて罪を犯さず、生ける時は強められ、死ぬる時は慰を与え給へ、ああ主よ、我等の神よ、この祈願を聖子イエス、キリストの御名によりて聴許しめし給へ。アーメン。

17 前掲『女子補導会』4ページ。

18 同前、11ページ。

19 同前。

20 同前、7ページ。

21 同前。

22 同前。